

## 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

**堺市立少林寺小学校**  
校長 小 鯛 隆

<b>中学校区におけるめざす子ども像</b> ちがいをみとめ、ともに生き、将来の夢と希望に向けて自ら学び続ける子
---

<b>令和2年度 重点目標</b> ・昨年度、特別な支援を要する子どもの初動対応が遅れて学級が落ち着かない状態が続いた。発達障害理解研修を通じて学校全体として特別支援教育の充実を図る。 ・よりよい学級づくりを進めるために子どもと教職員・子ども同士の人間関係づくり、縦割り活動を通して進める縦の人間関係づくりによって子どもの自尊感情を高め、考えや行動に対する自信と責任が持てるようにする。 ・自分を大切にすると同時に、常に相手の立場になって物事を考えることや、人の痛みを分かろうとする気持ちを大切に、いじめや差別を許さない人権尊重の精神を育てる。
---

<b>「確かな学び」の現状</b> 堺授業スタンダードを基盤に据えた授業改革と主体的で対話的で深い学びを実現する取り組みの成果が表れ、全国学力学習状況調査の算数科では良い結果が出た。しかし、依然として文章を読み解く力、話す力・書く力、読書習慣に課題が存在する。そこで今年度も国語科を中心とした主体的な学びによる授業改善を進め、すべての学習の基盤となる書く力や読み取る力の向上をめざすとともに読書習慣の育成にも学校をあげて取り組んでいきたい。本校特有の少人数の特性を生かした個に応じたきめ細やかな基礎・基本の徹底を、そして全ての児童が課題に対して、自分の考えを持ち、仲間との意見交流を行って学びあいを行い、自分たちで課題を解決していく主体的な学びを更に進めていきたいと考えている。また、少林寺っ子ノートの家庭学習の取り組みも引き続き学校をあげて取り組み、その定着を図ることで学びの基礎力を高め、学力の向上につなげていきたいと考えている。	<b>「豊かな心・健やかな体」の現状</b> 本校は、すべての学年が単学級であることから、小学校生活で一度もクラス替えがなく、人間関係が固定化してしまうという課題がある。そのため、一たび人間関係が崩れると中々回復できないといった問題がある。そこで、重点目標の一つに学級づくりによる横の人間関係づくり、縦割り活動による縦の人間関係づくりを掲げ、固定化されがちな関係性を逆に強い絆として生かし、学級活動や児童会活動、縦割り活動の活性化させることによって、子ども一人ひとりの自己有用感を高め、自分の考えや行動に自信と責任が持てるようにしていきたいと考える。そのために、昨年度より始めた縦割り活動を年間を通して行うようにし、異学年交流の常時化をめざす。また、よりよい学級、よりよい学校づくりにすべての児童が自分たちで考え、活動することによって自治の精神と主体的な行動力を身につけさせたい。
--	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	総合的な学力の向上	基礎的な知識・技能の習得を図る。	・朝の読書タイム、読書ノートの表彰などを通して児童の読書活動を充実させる。	・読書時間数 ・読書ノートの記録 ・読書表彰状	・実施状況	2月	◎ 図書館サポーターと司書のおかげで、読書博士の認証状を受ける児童が増えた。	◎	◎ 図書館サポーターと司書のおかげで隔週の読み聞かせやおすすめの図書並行読書の取り組みがすすんだ。おおむね良好だった。	◎	◎ 図書室にはたくさん本を読んでいる子の名前が書かれており子供のモチベーションにつながっていると思う。反復練習による基礎能力アップは学校全体の底上げにも繋がる。	
			・昼のわくわくタイムに、漢字や計算ドリルを反復練習して基礎学力の充実を図る。	・学びの診断による漢字、計算力正答率	・学びの診断テスト結果	2月	○ おおむね堺市の平均を上回っている	○	○	○		
	授業改善	主体的に学習に取り組む態度を育成し、授業改善をする。	・「少林寺っ子ノート(自主学習ノート)」による家庭学習づくりを行い、主体的な学びを総合的に進める。	・家庭学習ノートの提出率70% ・学びの診断、学校評価アンケートの関係項目の結果	・学びの診断テストのアンケート	2月	△ 二学年では肯定的な結果が得られたが、一学年では堺市の平均を下回った。	△	△ 保護者への啓発と週末の宿題としての定着化が必要。また、できない子どもへのアプローチも検討していく。	△	△	△ 提出率が低いことは至急改善の必要あり。やる気、モチベーションが上がる仕組みを考えて欲しい。
・国語科を中心とした主体的な学びによる授業改善を進め、すべての学習の基盤となる書く力や読み取る力の向上をめざす			・校内研究授業 ・日常の授業の内容 ・児童のノート内容	・アンケート ・授業観察 ・研究授業	2月	○ 取り組みの成果は少しずつ表れている。	○	○	○	○	○	○
・児童が「自分で考える」「グループで意見を出し合う」「学級全体で意見交流する」ことを通して自分たちで課題解決する授業づくりを行う。			・校内研究授業 ・日常の授業の内容	・アンケート ・授業観察 ・研究授業	2月	○ 研修でも取り組み成果は表れている。	○	○	○	○	○	○
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	心の教育の充実を図る。	・道徳の授業をはじめ、すべての教科を通して豊かな心(高い規範意識・豊かな人権感覚・人を愛する心・思いやりの気持ち・命の大切さ等)の教育の実践に取り組む。	・人権教育・道徳教育の年間計画に基づいた指導	・アンケート	2月	△ 道徳の授業研究は実施できたが、アンケートには自尊感情の低下がみられた。	△	△ 今年はコロナ禍で子どもたちに豊かな学びの場を多く作れなかったことが響いた。	△	△ コロナ禍で子供たちの不安な気持ちや自粛生活による影響が学校生活においても出ている状況があった。	
			●クラスづくりと縦割り活動を通して横と縦の人間関係づくりに取り組み、子どもの自己有用感を高め、考えや行動に自信と責任が持てるようにする。	・月1回、縦割り活動を実施 ・年間を通じた挨拶指導の実施	・実施状況	2月	△ 縦割り活動が新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。代替案がなかった。	△	△ 縦割り活動の実施についてはコロナの状況を鑑み来年度は中止を決定した。	△	△ 学校生活だけでなく家庭においてもアンテナを張り何かあればすぐに対応できる準備をして欲しい。	
			・毎日の登下校時の挨拶を通して、コミュニケーションの基礎を培う。	・毎日の登下校時の様子	・実施状況	2月	○ 見まもり隊からは挨拶を褒めてもらっている。	○	○ 挨拶には十分取り組めた。	○	○	○
きめ細かな生徒指導	子どもの理解を深め、家庭や専門機関との連携を図り、きめ細かな生徒指導を推進する。	・「いじめアンケート」や「生活習慣チェック」を通して児童の実態を把握し、家庭と連携しながら、いじめや問題行動の未然防止、早期対応に努め、児童に寄り添った生徒指導の充実を図る。	・児童の良好な人間関係の確立 ・生活習慣の改善	・実施状況	2月	○ いじめの認知件数は少なくおおむね解決の方向に向かっている。	○	○ いじめ認知に学校全体で取り組んだ。	○	○	○ 発達障害や外国籍の児童が多いので先生方の負担は大きいかと思うが他の児童への被害や授業妨害はあってはならないことであるので厳しく対応することも必要であると感ずる。	
		●特別な支援を要する児童の指導にあたっては、学校全体で支援体制を組む。発達障害理解研修を通じて特別支援教育の充実を図る。	・校内特別支援委員会 ・ケース会議 ・校内研修会の実施とその成果	・実施状況	2月	△ 発達障害理解研修を受け学校全体として取り組んでいるが、日々問題が生じる。	△	△ 支援学級の児童や外国籍の児童を中心に積極的な生徒指導を後半から行い成果があった。	△	△	△	
人権教育	人権尊重に根ざした教育の推進を図る。	・トラヂタイムをはじめ学校行事等の様々な場面を通して、国際理解・多文化共生の教育を推進し、人の痛みを分かろうとする気持ちを大切に、いじめや差別を許さない自尊感情の育成をめざす	・トラヂタイム等で多文化共生教育の推進 ・生活アンケート	・実施状況 ・アンケート	2月	△ 新型コロナウイルスの関係で縦割り活動としてのトラヂタイムは難しかった。学級単位での実施を行った。	△	△ トラヂタイムの持ち方を検討した一年だった。	△	△	△ コロナだからできないというのではなく日々の活動において学べる環境が必要であると思う。	
		●陵西中学校区としての「部落問題学習」を人権教育の中に位置づけ、陵西中学校区の教職員と連携してこれまでの実践を大切にしながら地域の実態に学び、教職員・児童の交流を深める	・公開授業の観察 ・4校交流会の開催	・実施状況	実施時期	△ 部落問題学習の夏季研修をおこない6年生の人権学習は実施した。4校交流は中止になった。	△	○ コロナ禍により対外的な交流はできなかったが校内では取り組めた。	○	△	△	

校長より(年度末) ウイズコロナで子どもたちにとっても教職員にとっても異例づくめの一年間だった。その中でも陵西中学校の協力を得ながら、外国語活動については子どもたちの積極的な表現活動が見られたり、算数の静謐な授業環境が整った。少林寺小学校という小規模の学校でもやはり人材の確保は必要であると感じている。また、学年間の自尊感情の差異や教科の学習への意欲の差が見られたことはまだまだ、研修を重ねながら堺スタンダードを意識した少林寺スタイルを確立していく必要があると考えている。そして、教職員一人ひとりの力量をあげ子どもたちに返していく必要があると痛感している。

学校関係者評価者から(年度末) コロナによって先生も子供・保護者も大変な一年となったが無事年度末を迎えることができた。来年度は先生方の力量をあげて頂き、解決できていない問題に取り組んでいただけることに期待する。